

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< No.43 2011. 8. 21 > 連絡先 402-1622

被爆者は被害者、加害者は誰？ 長崎・被爆者のお話から

森口正彦さんは7才の時、爆心地から3.5kmのところでは被爆しました。家族7人、「その時」にはそれぞれ別々の場所にいましたが全員無事で、生死の境目は本当に紙一重の差であると、強調しておられました。また次のようなこともおっしゃいました。

「爆心地の真下の一角には、86世帯の人びとが住んでおり、爆風（440m/s）と熱線（3～6000℃）で一瞬にして消されてしまった。その後その場所はそのまま埋められてしまった。本当に原爆を知っているのは爆心地で被爆した人、しかし彼らの証言は聞けない」「当時長崎は人口23万人、自分の証言は23万分の1」。

一人ひとりの悲惨な状況を話すことも被爆体験だが、森口さんはそれよりも、どうして長崎に原爆が落とされたのか、そして、戦争の中の加害者と被害者を考えるには戦争の仕組みを科学的にとらえなくてはいけない、という話をご自身のお兄さんが戦争で中国へ行った話や、人の首を持って笑う日本兵の写真などを提示しながら話されました。

では加害者は、・・・アメリカ大統領？原爆のボタンを押した人？原爆作った人？戦争をすすめた人？戦争をやめられたのにやめなかった人？



みち子のひとりごと ただいま

ほぼ40年ぶりの長崎に行ってきました。滞在三日間の内二日間も雨が降り、「長崎は〜今日も〜昨日も〜雨だった〜♪」（字余り!）。

7800人が核兵器廃絶を求めて集まった開会集会、あまりの人の多さに驚きと頼もしさを感じる。二日目の分科会は佐世保見学、静かな湾の80%は自衛隊とアメリカ海軍が使い、海沿いに続くフエンスと、弾薬庫に林立する無数の避雷針が異様。

最終日は閉会総会ではなく長崎市の式典へ、ずぶぬれで感慨に浸る余裕もなく残念。

被爆者から直接話も伺い、知らなかったこと、気づかなかったことがたくさんあった。

行きの船の中では他人行儀だった人たちと、帰りの電車では友達に。現役の先生や、看護師さんたち、高校生が先生に引率されての参加も。11歳から70歳の41名。一人ひとりが自分なりに何かをつかんできたはず。私も…。

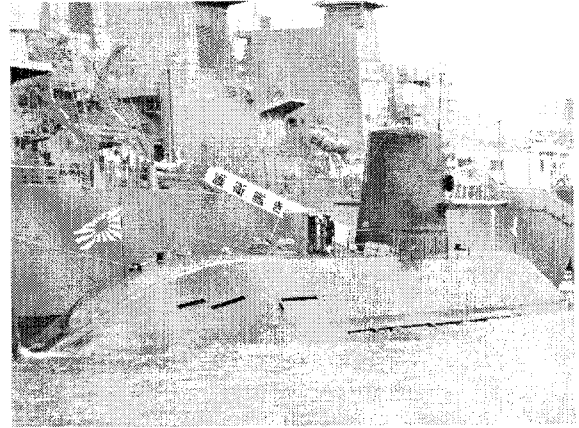
（先週の「地の池地獄」は「血の池地獄」の誤りでした。）



佐世保軍港を見学して

海から見た様子を、写真で紹介します

「護衛艦きりさめ」のすぐ横に浮上し、物資を補給している（様子の）潜水艦



海岸線にはフェンスが張っており、いたるところに海に向かって「米軍基地制限水域50メートル以内に許可なく立ち入ることを禁ずる」の表示が。

近づきすぎたらしい我々の船に向かって、高速で近づいてきた米軍の監視艇



弾薬庫（中心）のまわりに林立する避雷針。すぐ上に見える一般住宅までは、ほんの700mしかない。

